

令和6年度 学校評価

1. 本園の教育目標

健康で安全な生活ができる子どもに教育する。

自主的で豊かな創造性を養うために、様々な試みを取り入れ、社会の変化に対応した新しい時代の教育をめざす。

多様な教育活動を通じて集団生活に適応できるよう指導する。

教育活動には幼稚園と家庭が一体となってあたる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」に基づき、子ども一人ひとりの特性を踏まえて、保育活動を展開する。保護者のニーズ、本園の担う役割を知り、教育目標達成に向け取り組みを進める。また感染症予防や事故防止等、一人ひとりの子どもが安全意識を高めながら園生活を送ることができるようにする。

3. 評価項目とその成果(達成状況 A=達成できた、B=概ねできた、C=まだまだ不十分)

年度末に子どもの様子、幼稚園の教育、家庭での様子という観点から、保護者アンケートを実施した。そのことにより園や子どもに対する保護者の思いや考えがより明確になった。その集計結果から教職員間で検討と共有を行い、その第一次まとめを全保護者対象に公表した(3月15日、22日)。

その後、さらに一人ひとりの教職員が保護者の意見やアンケート結果を踏まえ、教育目標の達成状況の把握と整理を行い、自己評価を行った。

※達成状況の判断は、保護者アンケート、保護者の意見及び幼稚園内教員評価を総合し判断した。

①一人一人の成長を支援・援助するため、全教職員が共通理解を持ち関わる

	評価項目	達成状況
ア	全教職員が園児一人ひとりについて、幼稚園生活の把握、子どもの特性を知り、保育に生かすことができた。	A
イ	日常的に支援や援助の方法を確認することができた(ミーティングを活用)。	A
ウ	特別支援リーダーを配置し定期的に子どもの状況について情報交換や保護者との相談体制をとることができた。	B

②子どもの健やかな成長のための適切な運営

	評価項目	達成状況
ア	人権尊重や不適切保育防止に関する研修を再三受講できる体制を確立し、その学びを全教職員が共有し、振り返りや改善実施を行ってきた。	A
イ	不適切な保育が行われていないかの自己チェックリストを再三活用し、教員相互に保育を振りかえる場を設定し、常に点検と改善を実施してきた。	A
ウ	「不適切な保育」の事例研究の実施、その背景や要因を探り、「不適切な保育が行われないようなシステムを構築した。	A

③身体を進んで動かし、楽しんで健康な心と体づくりに努める

	評価項目	達成状況
ア	専門講師による体操、リトミック、ダンス指導を取り入れることにより、一人ひとりの体力の向上を図る	B
イ	園庭遊びの他、雨天時の遊びの工夫(お遊戯室の活用)をすることができた。	A
ウ	運動遊びを楽しんで積極的に取り組めた	A
エ	運動遊びの後等の手洗い・消毒等、感染症予防の習慣も身についてきた。	A

④専門講師の招聘と特色ある活動(多様な教育活動)

	評価項目	達成状況
ア	多様な活動を実践し、体力や体幹、表現力、コミュニケーション力、協調性や社会性、異文化理解等につながった。	B
イ	新しい時代の教育の一環として「ダンス活動」を実践し、体幹や表現力、コミュニケーション力の育成につながった。	A
ウ	参観日を設定する等、保護者に特色ある活動の理解を深めることができた	B
エ	活動の積み重ねにより達成感・成就感が味わえる場の設定ができた。	B

⑤文字にふれる機会を増やし、表現力を伸ばす

	評価項目	達成状況
ア	絵本や紙芝居などの読み聞かせの機会を増やし、言葉集めなど語彙を増やす。そのために、園児が使用する文字練習等の教材を厳選し、新刊絵本等もできるだけ購入量を増やす。	B
イ	文字を書く練習は一人ひとりの習熟に合わせてきめ細やかに指導する	A

⑥規則正しい生活習慣を身につける

	評価項目	達成状況
ア	日頃から幼稚園や学級内でも、また、幼稚園来客者に対しても、気持ちの良いあいさつができるようする。	A
イ	日々の幼稚園生活が、規則正しいリズムで過ごせるようメリハリをつけて場面の切り替えができるように保育内容を工夫する。(設定保育)	A
ウ	朝の登園時刻等が不規則な家庭と、啓発と個別対応で改善に取り組む。	B
エ	規則正しい生活習慣について、広報誌を通じて啓発活動を行う。	A

⑦行事等を通して、協調性や自立心、表現力などを養う

	評価項目	達成状況
ア	それぞれの行事の中で子どもが主役に考えて実施した	A
イ	子どもの満足感・充実感のある活動になるよう工夫し、子どもが活躍できる場を意図的に設定できた	A
ウ	年間を通じて子どもの心身の発達成長を観点に行事の精選と改善を行う	B
エ	認定こどもであることから保護者のお手伝いの負担軽減を図る	B

⑧園での子どもの様子を、保護者と共有する

	評価項目	達成状況
ア	毎月のしおり、学年だより、ホームページを通して活動内容や保育・教育の様子をわかりやすく知らせてきた。	B
イ	保護者への情報発信として「子育ての WA！」を毎月作成した。内容は、「子育てのあれやこれや」を中心に子どもとの触れ合いや絵本コーナー、食育に関連したものを提供してきた。	B
ウ	ホームページは、一日一日の子どもの様子がわかるように「今日のコマコーナー」を新設し、ほぼ毎日掲載してきた。	A
エ	保護者ページにはランダムに写真を掲載してきた。	B
オ	月のしおりは読みやすいよう(文字の大きさ・記事内容等)工夫してきた。	B

⑨安全な幼稚園生活

	評価項目	達成状況
ア	バスの送迎は安全に配慮されている	A
イ	感染症対策が徹底されている、また、その情報が保護者に周知されている	B
ウ	安全点検などを実施し、子どもを取り巻く環境の整備ができています	A
エ	熱中症対策など水分補給、エアコン等適切にとられている	A
オ	安全教育の一環として「自転車安全運転教室」を開催した(年長組のみ)	A

4. 総合評価(課題、方向性など)

①一人ひとりの成長を支援・援助するため、全教職員が共通理解を持ち関わる

日々のミーティングやリーダー会の中で定期的に子どもの状況について情報交換やその方策に各学年の共通理解や情報共有を綿密に行うことができた。また、子どもたちの成長を支援・援助するために特別支援コーディネータを配置したことにより、個々の子どもに対する対応・指導により一貫性が見られるようになった。全員の教職員が全員の子どもを知る、一人ひとりの子どもを一面的にとらえるのではなく多面的にとらえることができ、適切な支援ができた。

②子どもの健やかな成長のための適切な運営

子どもの健やかな成長のために「子どもの意思・人格の尊重、懲戒権限乱用の禁止」は必須である。そのためには、必要な体制整備と教職員の資質向上が不可欠であり、常に振り返り、自己評価、改善実践をしていかなければならない。報道等で取り上げられている当園においても決してそのようなことが起こりうることはないと言い切れない。

以上の事から今年度は昨年度以上に、不適切な保育が行われていないかの自己チェックリストを再三活用し、教員相互に保育を振りかえる場を設定し、相互評価を行うなど、常に点検と改善を実施してきた。次年度も引き続き、自己の保育・教育を振り返り、改善実践していく体制を維持する。

③身体を進んで動かし、楽しんで健康な心と体づくりに努める

専門講師による体操、リトミック、ダンス指導を取り入れることにより、一人ひとりの運動に触れる時間が確保されている。中には「疲れた」「しんどい」と漏らす子もいた。特に暑い時期には、途中休息や水

分補給等を行いながら活動した。

1日に2回の園庭での遊びの継続による効果もあった。暑い日、寒い日にはお遊戯室を有効活用した。また、各場面での手洗い・消毒等、感染症予防の習慣も身につけてきた。

④専門講師の招聘と特色ある活動(多様な教育活動)

令和6年度からは近年注目が集まる活動の「ダンス」を導入した。新しい音楽に触れ、表現力やコミュニケーション力を育て、協調性や社会性の育成をもねらっています。子どもたちは楽しみながらいきいきと身体を動かしていたが、40分間の活動に慣れておらず、疲れが出る子どもいたので、間に休息を入れたり、水分補給を入れたりした。

それぞれに正課で行う専門講師による指導や取組の様子は参観日を設定した。一生懸命取り組む姿には感動させられる部分もあった。活動は季節により、熱中症対策が必要であり、活動の中で適宜休息や水分補給を徹底した。また、4つの活動が1週間の4日間(一部時間)を占めていることから、子どもたち疲労感、マンネリ間をなくすために、各講師の指導も工夫を凝らしていただいた。それだけではなく、それぞれの活動に発表会等の明確な目標設定が必要であると考えた。体操は運動会へ、リトミックは音楽会へ、ダンスは発表会へと発展するものがある中で英語活動では、身体表現やゲームを取り入れ楽しく英語を学ぶことを継続し展開してきたが、新たに毎週の積み重ねが何か達成感が味わえるようなものの場の設定が必要であると考えた。

教育目標の一つ「社会の変化に対応した新しい時代の教育をめざす」について、今では、英語・体操等はどこの園でも取り組みが進んでおり、質の問題になってきている。

⑤ことば・文字にふれる機会を増やし、表現力を伸ばす

毎週正課の中で語彙を増やすことや文字の読み書き等ができることをねらいに教材を使用している。学級の担任・副担任によるきめ細やかな指導で集中して取り組む姿勢が身につけてきたが文字の読み書き等、その進捗状況について、見えづらいという声もある。小学校教育「国語科」につながるものであり、幼稚園で終結するものではないが、その習得や様子に関しての広報展開していくことも必要である。

しかし、「年少さん」では、まだまだ自分の思いをうまく伝える、一つの言葉からさらに思いを巡らし広げていくということについては課題が残る。

⑥規則正しい生活習慣を身につける

幼稚園生活のあらゆる場で「あいさつ」について、できていると意識している保護者の意見も多く、実際に、来園者から「美木幼稚園の皆様が子どもまで挨拶をしてくれて気持ちがいいですね」、と言われるようになってきている。ただ、「おはよう」と「こんにちは」の使い分け等に課題が残る。

今後も家庭と連携し、日々取り組んでいき、単なる「あいさつ」から気持ちを込めて顔を見て言えるようにしていきたいと考える。

保護者の考え方なのか遅れて登園してくることにこだわらない方がいる。社会生活を送るうえで、時間を守るという要素も重要なので今後とも啓発をしていきたい。特に朝の登園時刻や一日の保育でリズムがつかみにくい子どももいるので、引き続き啓発と家庭との個別対応に取り組む必要がある。幼稚園だけではなく「規則正しい生活リズム」は家庭との連携が必須である。

⑦行事等を通して、協同性や自立心を養う

学年ごとの発達段階を踏まえ、1年間の四季折々の季節感を味わい、園生活に変化や潤いを感じさせる行事を精選していく。特に2学期は行事の感覚が短期間な場合もあり、練習時間や製作時間等、子どもの負担感を減少させるような工夫も必要である。そのために運動会から音楽会にある保育参観(+ミニ作品展)については、かなり負担感があるので普段の保育の様子を見ていただく参観と考えている。「みきっこ広場」では昨年度以上に集客ができ、お当番さんお手伝いもあり、親子・卒園生との交流もでき楽しく一日を過ごすことができた。

運動会や音楽会、お遊戯会等、それぞれの行事の中では子どもが主役になることを中心に実践してきた。また、年長組では各行事の中でできるだけ多くの園児にリーダー役を経験させた。その結果、自己の存在感を持ち、みんなで作り上げる喜びや達成感を味わわせることができた。次年度も同様の方向で臨みたい。

お遊戯会では子どものセリフや小集団の掛け声に「良い」との反響があり、次年度は意図的に設定を試みることにする。一人ひとりのセリフをとという声もあるが、決められた時間にCDに合わせて劇を展開することは発達段階から困難さがあり、実現は難しい。

⑧園での子どもの様子を、保護者と共有する

「月のしおり」については、A4判からB4判に改良したが、読みやすさについては文字数も多くまだまだ掲載の仕方等に工夫がいる。ホームページは、今日の一コマを新設し、アンケートのご意見欄でも好評であった。保育中での撮影が主になる為に、なかなかうまくいかないこともある中で、保護者ページについては、掲載しているクラス等の偏り・子ども掲載枚数の違いを訴える声もあり工夫が必要である。

配付物はBrain 園児アプリを活用しスマホ等の機器でも閲覧できるようにしているが、まだまだ既読にならないご家庭も少なくはない。このツールを身近に感じてもらうようにする必要がある。

⑨安全な幼稚園生活

今年度は試行段階であるが「自転車安全運転教室」(遊びながら、自転車の乗り方から交通事故にあわない為の技能や知識を習得し子どもの将来に安全を届けることを目的としている)、を年長組園児対象に開催した。その様子は保護者に参加していただく機会を設けた。

参観された保護者からは、

- ・早く乗れるのがカッコイイ！と思っていたところが、他の子達と一列に並んでぶつからないよ止まったり、進んだり、自分で考えて自転車に乗っている姿にびっくりしました！
- ・今までは『みんなヘルメットを着けていないけど』と言っていた娘でしたが、『ヘルメットは大事なんやでー』と帰宅早々に言っており、とても学びがある時間でした。
- ・自転車の乗り方、交通ルールやブレーキのかけ方など、今までほかの園でも聞いたことがなかった教室ですごくよかったです。
- ・自転車に乗る事だけでなく、信号やとまれの標識で止まることや、周囲の状況を見て動くなど、実際の道路を走るときに役立つ内容でした。
- ・近所では歩道がないところが多いので、周囲に気を付けて進むことが学べてとてもいい経験になりました。
- ・家ではストライダーから始めたため、足で止まるが多かったのですが、繰り返しブレーキの使い方やタイミングを練習していて良かったです。自宅でも繰り返し伝えようと思いました。

5. 学校関係者評価

以上の学校評価を受け、学校関係者評価委員会を開催した。以下は、その要約である。

幼稚園アンケート結果より、多くの保護者の方が各質問項目において肯定的な回答が 80%以上を占めている事は、高く評価できる。中でも幼稚園の教育分野について、4 項目の質問に肯定的な回答が、100%に達している事は、幼稚園としての前向きな取り組みを行っている結果であると感じる。一方で、家庭についての質問項目については、やや否定的な回答が多くなっている傾向があるため、幼稚園と保護者が連携して改善できる方向がないか、検討していく必要があると実感した。

自己評価の達成状況の結果についてほぼ同意見であると感じる。B「概ねできた」評価となった項目については今後も改善を図り、A「達成できた」に近づけるように期待している。

今後も様々な角度から精査、考察を行いより良い教育活動に活かしていただけることを望んでいる。

総合評価の 9 点については、以下のとおりである。

【学校評価を受けての意見】

- ① 一人ひとりの成長を支援、援助するため、全教職員が共通理解を持ち関わる定期的なミーティングで、先生方が全園児の情報(名前、顔、個性)を把握されていると、実感できる。特別支援コーディネーターの配置による成果は身近に感じることができなかったが、子どもたちへの支援など新しい取り組みとして取り入れていく事は高く評価できる。
- ② こどもの健やかな成長のための適切な運営
幼稚園に通園する子どもたちの様子から、素直で明るく元気な園児が多いと感じる。先生方のことも大好きなようで、各家庭でも幼稚園での出来事を楽しそうに話してくれるという声をよく聞く。適切な保育・教育、指導がされていると実感できる。今後も自己評価チェック機能を継続し、体制維持に努めてほしい。
- ③ 身体を進んで動かし、楽しんで、健康な心と体作りに努める。
リトミック、ダンス指導等の取り入れの成果として体幹が成長していると感じる。継続するためにも楽しく行うことが必要であると考え、全園児が積極的に取り組めるように心がけてほしい。また、本年より熱中症対策が義務化され、子どもたちだけではなく、働く先生方も対象となることを自覚し、活動してほしいと思う。
- ④ 専門講師の招聘と特色ある活動(多様な教育活動)
子どもたちとの会話から、ダンス、リトミック、体操、英語の 4 つの活動は新鮮で楽しく取り組めていると感じている。他園との差別化で活動内容を考えるのではなく、美木幼稚園らしい「こどもたちがのびのびと楽しく学べる」指導方法を追求し、質の改善に取り組んでほしい。
- ⑤ 言葉、文字に触れる機会を増やし、表現力を伸ばす。
読み書きなど個人差が出ることを前提に、量的にも質的にも就学前の子どもたちが苦にならないように配慮してほしい。言葉集めについては、こどもとの日常のコミュニケーションで成長を実感できている。今後も子どもが興味を持って楽しく学べるような指導を継続してほしい。

⑥ 規則正しい生活習慣を身に付ける。

登園降園時の挨拶について積極的に取り組まれていると評価できる。園児たちも元気に挨拶している場面をよく見かけるので、今後も継続して行ってほしい。来園者からお褒めの言葉をいただいていることから、そのことはよくわかる。「おはよう」「こんにちは」の使い分けについて明確なルールを設定しないと難しいのではないかと感じる。〇時になれば「こんにちは」に切り替えるなど、園児でも理解しやすいルールが必要と感じる。また登園時間に間に合わない一部のご家庭については、保育が開始されている中、担任が対応のために教室を離れることにも繋がり、他の園児に多大な迷惑がかかることから、もっと積極的に保護者と園児に対して指導するなど毅然とした態度で接してほしい。

⑦ 行事等を通じて、共同性や自立心を養う。

行事を通じて園児たちの成長を感じる。毎年やっているからではなく「子どもの成長」という観点で、園児のために行事の回数及び内容の見直しを行っている点は評価できる。今後も継続してほしい。お遊戯会での新たな取り組み(小集団での掛け声など)も意欲的に取り入れていくとのことで、園児たちのさらなる成長に期待している。

⑧ 園での子どもの様子を保護者と共有する。

毎月のしおり、学年だより、ホームページ等の情報発信に力を入れ、適時改善している事は評価できる。読みやすい工夫を継続して行ってほしい。ホームページ内での掲載写真についてはいろいろな意見があると想定するが、万人が納得のいく写真を掲載することは不可能である。今後も「普段の保育環境が伝わる写真」を選定いただければ問題ないとする。また、配布物をアプリによる閲覧に切り替える方向性は、資源ゴミの削減の観点等から非常に評価できる。しかし、夏休みなどでアプリに長期間ログインしなかった場合、お知らせ通知が届かなくなるなどの問題点もあるため、改善が必要である。

⑨ 安全な幼稚園生活

自転車安全運転教室や交通安全教室(警察署・堺市)などで園でも積極的に交通ルールや自転車安全運転の指導を行っていただく事は、とてもありがたいと感じている。身近に迫る危険の1つである交通事故に対して、園児の頃から正しく理解する事は非常に重要であり、集団生活の中で学べる事はとても有意義である。今後もこのような取り組みを継続してほしい。

最後に、日々、子どもたちに今日幼稚園どうやったと話を聞くと、楽しかったと元気よく返事をもらう。いつ幼稚園を訪問しても先生・子どもたちが「笑顔・あいさつ」で迎えてくれる。保育の様子から先生方の温かさを感じることも多々ある。よって、現状でも十分に満足している事は伝えておきたい。今後も古き良き伝統を残しながら美木幼稚園らしい運営を継続してほしいと思う。

以上、保護者の皆様からのアンケート、学校(施設)関係者の皆様からのご意見・提言をいただきありがとうございました。幼稚園の自己評価(学校評価)と合わせて令和7年度以降の運営の参考にさせていただきます。